

視 察 研 修 報 告 書

氏 名 (下平裕次郎)

令和6年8月8日～8月9日 1泊2日

新潟県十日町市「大地の芸術祭」

大地の芸術祭

・市役所職員からの話

今年9回目で文化庁が共催として加わったり、回数を重ねるごとに地域住民の理解が深まっていた。しかし、現在でももちろん反対の方々もみえる。市民からは還元がないという声もあるということもあるが、5万人の市に50万人の来客があり、昼食難民も出るほどのこと。また、宿泊施設が市内には多くないため、市外に宿泊する人も多いということ。下呂市はその点では、開催時期を考慮することができたら観光業の更なる発展につながると感じた。また、移住者の観点からも非常に興味深い話があり、特に20代30代の女性に移住してくるという話は素晴らしいと感じた。しかし、結婚ということにはつながっていないというのはもったいない。

・事務局長 原氏のガイド

本当に市全体で色々なところで作品があり、地域おこしにつながっていると感じた。20年以上前に作られたカカシのアートは地元住民が冬季には片付けを行い管理しているという話は素晴らしい協力体制だと感じた。また、神社の敷地に作品があるブースにも行かせてもらったが、非常に綺麗に整備されており、神社という大切な場所にアート作品を設置し、来場者も増えるということは地域の理解と協力が必須でそのためには、何回も行わないと不可能だと思った。

アートで地域おこしと言うとなかなか理解しにくいことだと思います。しかし、大地の芸術祭を視察して、本当に町全体が盛り上がっているように感じました。そのためには1回の開催での、起爆剤としてすぐにはならないので最低3回と言う話もあった。継続することが大切だと感じた。

しかし、予算として約1億円の積み立てを行うという大きな予算が必要です。(下呂市の場合はもう少し少ない?) 芸術・アートと言うイベントで、観光客が増えることや、下呂市の知名度が上がるだけではなく、移住者(特に若い女性)が増えることや、地域住民が町の魅力を再発見できるなどという数多くの副産物を生まれていました。そこで、下呂市でも導入が検討されている宿泊税の活用をアートディスカバリーの予算とするという方向性もしかりと議論していく必要があると強く感じました。

視察研修・研修会等報告書

議席番号（~~124~~） 議員名（下平裕次郎）

1 年月日	令和6年8月23日(金)
2 場所	愛知県日進市 日進市市役所 他
3 視察・研修事項	日進市 自動運転バス
4 面接者	日進市議会議員 吉野ゆうと議員
5 視察研修、研修会の成果	愛知県日進市で、先進的に取り組んでいる自動運転バスの視察に行っていました。 駅から市街地のルートでは高齢者を中心に使用しており、市民の足となっていた。バスの大きさも10人乗り程の大きさで、座席の向きが向かい合っていることもあり、乗車客同士のコミュニケーションが自然と生まれ、楽しそうに会話している姿が印象的でした。 課題としては、路肩の雑草等にセンサーが反応して、何度か急ブレーキが作動している。また、走行速度が20キロぐらいの低速であるため、渋滞が発生し、他の車両が追い抜きをする時が少し危険が伴うと感じた。天井などもガラス張りになっており、夏は非常に暑さが厳しくなるという点、ハンドルがなくゲームのコントローラーのようなもので運転することと、車両の構造上運転にかなり技術が必要ということで、人材確保や育成も課題となると感じた。 下呂市で導入するとなると、雪や路線の傾斜など本当に多くの課題があるので、しっかりと研究を行い適切な業者選定も含めて実施していく必要がある。 しかし、下呂市に導入、運行が開始することができれば、市民はもちろん観光客へのイメージアップなど多くのメリットがあることなので、すぐには完成するものではないが、前向きに取り組んでいくことが大切であると感じた。